

4. 集大成科目「教職実践演習」の質的保証・実質化

教職科目「教職実践演習」の法的根拠と教育内容の「質」保証について

—学部全体のご理解とご協力を、今後ともお願いいたします—

教員・学生用

教職課程・教務課 2020年8月

1. 法的根拠について

教育職員免許法施行規則第6条第1項の表備考十一に、以下の通り謳われています。

「教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を習得したことを確認するものとする。」

2. 教職科目「教職実践演習」について

(1) 2010年度入学生のカリキュラムから教職科目「教職実践演習」が必須化されています。

(2) 実施に当たっての準備事項例として、

「入学の段階からそれぞれの学生の学習内容、理解度等を把握する。(例えば、履修する学生一人一人の『履修カルテ』(本学では「教職履修カルテ」と呼ぶ)を作成す。)」とあります。

(3) 留意事項としては、

「学生のこれまでの教職課程の履修履歴を把握し、それを踏まえた指導を行うことにより、不足している知識や技能等を補うこと」とあります。

(4) 補完指導として、

「『履修カルテ』を参照し、個別に補完的な指導を行い、教員として最小限必要な資質・能力が身についているかを確認し、単位認定を行う。」とあります。

3. ポートフォリオとは一確かな習得・活用、創造的な課題発見・解決能力へのステップ

(1) ポートフォリオとは書類や作品を入れる書類入れ等という意味で、実践的な教育学では「学びの成果や学修履歴をファイルし主体的・創造的に活用する」契機と方法という意味で使われます。学修履歴の活かし方の基準、その妥当性・本質性、創造性等が問われます。

(2) ポートフォリオ作成と活用は自己の学びと方法等を振り返り(一般化・メタ認知化)、絶えざる自己評価・検証を行い、これからの社会で求められる資質・能力の向上と自己課題の発見、拡充・深化を図るために行うものためのものです。

(3) 本学の教職課程では、これ等に基づき「教職ポートフォリオ」を運用しています。

4. 綴じる内容—何を、なぜ、どのように…綴じるのか? 価値ある問いとポートフォリオ—

(1) 作成した課題(1年次のものから4年次のものまで)

(2) 指示をされたもの (3) 自主的に作成したもの (4) その他

※電子媒体のものは、概要が分かるように写真かコピーをする。

5. 作成上の諸注意

(1) 教職ポートフォリオファイルは4年間を通して使用するため各自で責任を持って保管する。

(2) 綴じる書類は、原則として黒のボールペン(筆記具)を用いて記入すること。

(3) 論文や論述等からの要約・引用では出典の明記等、公的論文作成技術等に留意すること。

6. 評価と指導体制—学生自らの「主体的・対話的で深い学び」への支援—

(1) 教職ポートフォリオファイルは、履修登録時または指示のあった時に提出する。

(2) 教職ポートフォリオファイルの最終評価は、4年後期の「教職実践演習」で行う。

※例年、教職ポートフォリオファイルの提出時に、無くしたと申し出る学生がいます。

必ず自己管理をさせて下さい。再配付は致しません。

教職ポートフォリオファイル（履修カルテ）を活用しましょう。 学生用

—これまでの学修を踏まえ、免許取得にふさわしい実践的な力量を創る—

教職課程・教務課 2020年8月

1. これからの先生に求められていることは…？

これから教職をめざす人の仕事は、様々な情報・価値観があふれる 21 世紀をたくましく生き抜く子ども達、生涯にわたって楽しく学び続けることのできる子ども達を育てることであります。そして、そのための実践的・理論的な指導力、子ども理解に基づく深い専門的な知識・技能と豊かな人間性が求められています。

2. 日本の子ども達の課題は何か—判断・根拠を示し論理的に考えを述べる、分析や考察する力…—

世界的な比較調査で、日本の子ども達は「判断の根拠や理由を示し自分の考えを論理的に（説得力をもって）述べたり書いたりする」、「体験や実験結果等を分析・考察、評価したり効果的に説明する（発表やプレゼンテーション）」こと等に弱さ、課題があるとされてきています。

学ぶことの深い、わくわくするような楽しさに気付かせ、自らの資質・能力を引き出し主体的に判断し行動できる力を育てるためには、まず先生自らができること、学び続けることが必要です。

3. なぜ、教職ポートフォリオファイル（履修カルテ）なのか？

(1) 次世代型の教育、新学習指導要領の「資質・能力、三つの目標と評価規準」

新学習指導要領では、これからの資質・能力を三つの目標から育てます。①「何を学ぶのか（知識・技能、専門性）」、②「どのように学ぶのか（思考・判断・表現等、学び方と汎用的スキル）」、③「何ができるようになったのか（態度と価値、学びに向かう力・人間性）」。特に、知識の量より自分の課題を持ってどう活用・探究できたか（学び方・方法を学ぶ）、発表・報告、論述等、行動や態度面で「何がどうできたか、その価値は何か」が問われています。もちろん、確かに聞いたり理解する、メモや記録も大事です。

(2) 物事を多角的・多面的に吟味し見定めていく判断力—批判的思考力、情報リテラシー、洞察力—

子ども達に主体的な「課題発見・解決能力」を育て、自分らしく未来を切り拓いていく資質・能力を育てるには、「応用できるような学び方（汎用的なスキル）」の指導が必要です。例えば、様々な情報や情報手段を選択・活用する情報活用能力、物事の背景や全体像も踏まえ批判的に読み取る力、統計的な分析に基づき判断する力、深い考えや洞察力を持つための思考技術等も求められています。

(3) 知識を覚え答える学習から論述やレポート、発表や報告・プレゼンテーション、制作、討論へ

学習したことをどう評価し子ども達に自覚させるのかという評価方法観も大きく変わってきました。ペーパーテストでの知識の再現だけではなく（これ等も大事ですが）、子ども達の学びの履歴、学習プロセスや学び方を重視するポートフォリオやパフォーマンス評価等、多様な評価方法を取り入れた多面的な評価を行うことが必要になってきています（この履修カルテもその一つです）。

4. 教職ポートフォリオファイルを効果的に活用するために—五つのポイント—

臨床的な体験を通してこそ、専門や教職についての理論や研究的知見が具体化し、皆さんの学習が本物になってきます。「教職実践演習」では実践と理論の融合、体験から深い学びへ、応用できる汎用的な資質・能力へ展開し深める等（批判的思考力、課題解決能力等へ…）がめざされています。

- (1) 自分にとって価値ある「問い」（実践・研究課題）を持てること（課題発見・解決能力、探究心）。
- (2) 何ができ何ができないか、どうしたいかをいつも意識して取り組む（学び方を学ぶ、メタ認知化）。
- (3) メモや記録、分析・考察、評価、提案等、書いてまとめる作業をこまめに行う（思考の構造化、論述）。
- (4) 質問を考える、対話し自分の考えや想いを深めるトレーニングを意図的に行う（対話、協働的な学び）。
- (5) 実習体験から学んだことや今後の課題等を 1 分～3 分等で報告・発表するつもりで学ぶこと（論理性）。

例、一番伝えたいことは何か（主張・判断のキーワード）、選ばれたエピソードの述べ方（事例の選択と個性）、条件に合った時間配分と構成、読者意識。声量・姿勢・態度（非認知能力）等。